

日本独文学会第68回総会
春季研究発表会

2014年5月24日(土)・25日(日)

第1日 午前10時より

第2日 午前10時より

会場 麗澤大学

☎277-8686 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

Tel. : 04-7173-3059 (ドイツ語・ドイツ文化専攻事務室)

e-mail: tagung2014reitaku@jgg.jp

参加費 : 1500円 (学生、常勤職のない会員は1000円)

日本独文学会

☎170-0005 東京都豊島区南大塚3-34-6 南大塚エースビル603

Tel./Fax 03 - 5950 - 1147

メールフォーム : <http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

プログラム

第1日 5月24日(土)

開会の挨拶 (10:00~10:05)

A会場(1603教室)

草本 晶

総会 (10:05~11:30)

A会場(1603教室)

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 会長挨拶 | 渡辺 学 |
| 2. 議長囑任 | |
| 3. 庶務報告 | 田中 慎 |
| 4. 渉外委員会報告 | 井出 万秀 |
| 5. 会計報告 | 藤縄 康弘 |
| 6. 編集委員会報告 | 藤井 明彦 |
| 7. 企画報告 | 高田 博行 |
| 8. 広報委員会報告 | 初見 基 |
| 9. データベース委員会報告 | 斉藤 涉 |
| 10. 文化ゼミナール委員会報告 | 宮田 眞治 |
| 11. 語学ゼミナール委員会報告 | 河崎 靖 |
| 12. 教授法ゼミナール委員会報告 | 保阪 良子 |
| 13. ドイツ語教員養成・研修講座報告 | 太田 達也 |
| 14. 研究叢書報告 | 森 芳樹 |
| 15. ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会報告 | 太田 達也 |
| 16. ドイツ語教育部会報告 | 高橋 秀彰 |
| 17. 支部報告 | |

- 議事
1. 2013年度決算書および2014年度予算案について
 2. 支部選出理事の囑任について
 3. 監事の囑任について
 4. その他

会員意見開陳

日本独文学会賞授賞式 (11:40~12:10)

A 会場 (1603 教室)

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会 (12:15~13:15)

A 会場 (1603 教室)

ドイツ語教育部会総会・講演会 (12:40~14:20)

B 会場 (1602 教室)

総会 (12:40~13:10)

講演 (13:20~14:20)

望月正道 (麗澤大学)

「第二言語習得研究からみた語彙習得と指導」

シンポジウム 1 (14:30~17:30)

A 会場 (1603 教室)

バロックから今日までのドイツ文化における図像性と書記性
—現代の文化学・文学を参照しつつ

**Bildlichkeit und Schriftlichkeit in der deutschen Kultur zwischen Barock und
Gegenwart. Mit aktuellen Ansätzen aus der Kulturwissenschaft und der Literatur**

司会：縄田 雄二

- | | |
|--|------------------------|
| 1. イメージと言語の間の深淵 —ベンヤミンのアレゴリー論 | 川島建太郎 |
| 2. カフカにおける文字、スケッチ、身体 | 山尾 涼 |
| 3. Bildlichkeit und Wissenserzeugung. Mit einer Betrachtung der Zeichnungen
Friedrich Schlegels | 高次 裕 |
| 4. Film und Buch in Christian Krachts Roman „Imperium“ | 縄田 雄二 |
| 5. Thomas von Steinaeckers „Geister“, eine Weiterentwicklung der graphic
novel? | Stefan
Buchenberger |

口頭発表：文学 1 (14:30~17:05)

C 会場 (1501 教室)

司会：大塚 直、鶴田 涼子

- | | |
|--|-------|
| 1. ヘルダーリンの「河流」のメタファーにあらわれる「力」の概念に
ついて | 大田 浩司 |
|--|-------|

- | | |
|---|--------|
| 2. デーブリーンの結合術
ー『山と海と巨人』における人体改造について | 時田 郁子 |
| 3. 語り手はどこにいるか
ーギュンター・グラス初期戯曲作品『洪水』の〈物語〉構造 | 杵渕 博樹 |
| 4. 記憶の中のヨーロッパ ーシュテファン・ツヴァイクの1920年代の
短編における記憶と想起のモチーフについて | 杉山 有紀子 |

口頭発表：語学1 (14:30~16:25)

D会場 (1502教室)

司会：岡本 順治、末松 淑美

- | | |
|--|-------|
| 1. ダイクシス表現による現前化とフィクションの人称 | 瀧田 恵巳 |
| 2. 前置詞 <i>wegen</i> の格支配の変遷 ー言語変化のメカニズムをめぐって | 佐藤 恵 |
| 3. 説明場面で聞き手はどのように「トラブル」を示すのか
ー視線を中心にして | 白井 宏美 |

口頭発表：ドイツ語教育 (14:30~17:05)

E会場 (1505教室)

司会：Holger Schütterle、濱野英巳

- | | |
|--|----------------|
| 1. 少人数制ドイツ語授業におけるインタラクションの特性と「足場か
け」の可能性 | 石塚 泉美 |
| 2. Die Wirkung von Fehlerkorrektur auf Überarbeitungsprozesse und
-produkte | Tatsuya Ohta |
| 3. L1 oder L2? Ergebnisse einer Umfrage unter Lehrenden und Lernenden
zum Sprachgebrauch im japanischen Deutschunterricht | Axel Harting |
| 4. „Auf die Lehrenden kommt es an!“ Was wir aus der empirischen
Fremdsprachenforschung über die Lehrerrolle wissen | Michael Schart |

ポスター発表 (13:00~14:30)

F会場 (5階階段 1502教室前)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

現代ドイツにおけるグリム童話
ー現代の語り手からの考察

金城ハウプトマン 朱美

ブース発表 1 (14:00～15:30)

G 会場 (1404 教室)

(ブース発表は途中での出入り自由です。)

Sprachlernspiele. Ein Unterrichtsmittel mit hohem pädagogischen Potenzial

Marco Schulze

ブース発表 2 (16:00～17:30)

G 会場 (1404 教室)

(ブース発表は途中での出入り自由です。)

大学におけるドイツ語学習者の動機と動機づけ
— 6 言語を対象とした質問紙調査から

藤原 三枝子
境 一三
平高 史也

ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」 展示・発表 (13:00～17:30)

H 会場 (1411 教室)

懇 親 会 (18:00～20:00)

会場：麗澤大学学生食堂ひいらぎ

会費：5000 円 (学生、常勤職のない会員は 3000 円)

第2日 5月25日(日)

シンポジウム2 (10:00~13:00)

A会場 (1603教室)

18・19世紀転換期における身体表象とその表現—時間の流れと静止の中の身体

Körpervorstellung und deren Ausdrücke im späten 18. und frühen 19. Jahrhundert

司会：武井 隆道

- | | |
|-----------------------------|--------|
| 1. ヘルダーの彫塑論における身体表象の諸問題 | 濱田 真 |
| 2. ゲーテとタブロー・ヴィヴァンならびにアチチュード | 武井 隆道 |
| 3. 自動人形の時間性 | 三枝 桂子 |
| 4. バレエの芸術性 —舞踊における身体と幻想の連関 | 照井 夕可里 |

口頭発表：文学2 (10:40~12:35)

C会場 (1501教室)

司会：松岡 幸司、須藤 勲

- | | |
|---|----------------|
| 1. ペーター・ハントケの語りについて —Zustand の概念史のために | 前田 佳一 |
| 2. ハンス＝ゲオルク・ガダマーの解釈学における「善意志 guter Wille」の概念 —ガダマー＝デリダ論争を手掛かりに | 白鳥 まや |
| 3. Das Ringen um Worte. Die Kommunikation als Problem in den Diskussionen in den Jahrbüchern der Deutschen Schillergesellschaft (1989-99) | Andre Reichart |

口頭発表：語学2 (10:40~11:55)

D会場 (1502教室)

司会：田畑 義之、瀬川 真由美

- | | |
|---|-------|
| 1. fürchten と sich fürchten はどう違うのか
—ドイツ語他動詞構文と再帰構文の違い | 伊藤 克将 |
| 2. ドイツ語研究の構想的視点 —個別言語研究の実用的応用を求めて | 在間 進 |

口頭発表：文化・社会（10:00～12:35）

E 会場（1505 教室）

司会：吉田 耕太郎、平松 智久

1. フィクションのなかのリアリティ
ーCharlotte Link の小説における女性像 横山 香
2. A. W. イフランドが目指した舞台づくり
ー衣裳や装置の問題を中心に 新沼 智之
3. ジャンル確立期の「タンツテアター」をめぐる言説の分析
ーラバン、シュレンマー、ヨースにおける新しい舞台芸術の試み 柴田 隆子
4. 背景としての旋法音楽
ーアドルノ音楽論から透かし見られるある連続体 伊藤 壮

ポスター発表（10:00～13:00）

F 会場（5 階階段 1502 教室前）

（ポスターは期間中を通じて掲出されています）

ブース発表 3（11:30～13:00）

G 会場（1404 教室）

（ブース発表は途中での出入り自由です。）

教科書を使わない授業とは？

ー麗澤大学ドイツ語・ドイツ文化専攻における新カリキュラム導入の試み

草本 晶
濱野 英巳
Holger Schütterle
竹内 拓史

ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表（10:00～13:00）

H 会場（1411 教室）

閉会の挨拶（13:05-13:10）

A 会場（1603 教室）

石塚 茂清

学会期間中、上記のプログラムに加えて、下記の展示が行われます。

- 書店・出版社等による各種展示（書籍展示会場：1405 教室、1408 教室）